

令和2年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録【こども環境科・介護環境科】

日時 令和3年2月24日(水) 16:00~17:15

場所 学校法人 ほっかいどう学院 くしろせんもん学校 3階 第3講義室

出席委員 北構 和代 (釧路市私立保育園連合会副会長、治水どんぐりの家保育園 園長)
小野 信一 (北海道社会福祉協議会 釧路地区事務所 所長)
伊東 義光 (北海道介護福祉士会釧路支部 支部長
道東勤医協 高齢者住宅すずらん 管理者)
住尾 盛 (釧路市PTA連合会 顧問、昭和中央2丁目町内会 会長)

欠席委員 山本 綾子 (釧路市私立幼稚園連合会理事・会計、釧路聖母幼稚園 園長)
戸田 竜也 (北海道教育大学釧路校 教育学部 准教授)

出席職員 杉村 典史 (くしろせんもん学校 校長)
氏原 陽子 (くしろせんもん学校 こども環境科 学科長)
倉賀野 志郎 (くしろせんもん学校 こども環境科 教員)
伊東 利恵 (くしろせんもん学校 介護環境科 教員)
長谷 由香 (くしろせんもん学校 介護環境科 教員)
若生 みゆき (くしろせんもん学校 事務主任)

配付資料 ①レジュメ (令和2年度 第2回 学校関係者評価委員会)
②令和2年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録
③学校関係者評価のための各種資料

1. 開会 (司会:氏原)

2. 開会にあたって

- (1) 挨拶 (杉村)
- (2) 今年度の委員と学校職員の紹介
- (3) 司会者の決定 (小野委員選出)

3. 次第 (司会:小野委員)

(1) 令和2年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録の確認 (若生) 資料②参照

(2) 令和2年度の学校評価結果について 資料③参照

①報告 (学校から)

②報告に対する質疑応答

伊東委員

学校の説明会や、インターンシップ、高校訪問の状況は?

学校側回答 (杉村)

減少したが、2校来校してもらえた。高校訪問については、回数を減らしての対応となった。

伊東委員

進学相談会について、生徒はどのような基準で説明を聞く学校を選択しているのか?また、説明者として卒業生に協力してもらうのはどうか?卒業生が体験談を語ると良さが伝わりやすいと思う。卒業生と学校とのつながりを深める機会にもなると感じる。

学校側回答 (杉村)

オープンキャンパスで学校の魅力発信(学校紹介)を在校生が行ってくれた。活躍できる場が作れてよかった。卒業生にも参加してもらい、実体験を語ってもらったこともある。その取り組みは継続して行きたい。学校の広報誌にも卒業生の声を掲載していく。

小野委員

在宅勤務など、ウィズコロナで新しい働き方改革に取り組むのも良いかもしれない。

学校側回答（氏原）

休校中に在宅勤務をした教員もいる。

北構委員

評価する立場として、成績評価基準や進級・卒業認定基準を具体的に教示してもらえると評価しやすい。

学校側回答（杉村）

卒業認定基準については明確になっている。今後、変更・検討していく部分もある。

（氏原）

実習先によっては、即戦力として評価して頂ける施設もある。

（杉村）

専門職として高いレベルを求められているのは理解しているが、発達に関わる課題を持っている学生も少なくない現状。卒業し就職に結びついたが、現場に迷惑をかけることもあった。

北構委員

現場での課題もあると思う。

住尾委員

退学理由などについて、理由の変化は見られなかった？

学校側回答（杉村）

「介護・保育の専門職に向いていない」などの進路変更が多くみられる。

（氏原）

人間関係が原因のケースもあった。

（長谷）

高校時代休みがちだった学生には、特に丁寧な関わりが必要。発達の要素が関係しているケースも増加傾向にあると感じる。

住尾委員

学生から実習中はアルバイト禁止期間の為、「生活が苦しい」という話を聞いた。生活支援など何か対策は？業界を支える人材でもあるので、実習中に手当が出たらやりがいにも繋がると思う。

小野委員

技専生は、雇用保険など利用している制度がある。国にそのような制度を作ってもらえたら良いかもしれない。

北構委員

実習生には、「学びの機会になればいいな」という意識で来てもらっていた。実習とは別に、アルバイトとして雇うことはある。

小野委員

制度そのものを変えなければならない危機感のある状況だということがわかる。たしかに、モチベーションも上がり、学びの質が変わる可能性もある。実現するのはなかなかハードルが高いかもしれないが、奨学金も貸付制度から給付型に変わりつつある。

住尾委員

この状況下で、金銭的でなくとも何らかの支援があれば頑張り続けることができるかと思う。

小野委員

実習先でも評価含め、モチベーションが上がるような指導（サポート的なメッセージを送るなど）をお願いしたい。

勤務体制の関係で、教員研修に使える時間が少ないことや、教員募集をかけてもなかなか応募が少ないことがあるようだが、処遇の体制はどのようになっている？

学校側回答（杉村）

教員募集が少ないことは、地域的な要素も大きく関係していると思う。

北構委員

保育の現場でも語り合いは大事。来年度のテーマでもある、「研修」を役立ててもらいたい。

住尾委員

社会貢献、地域貢献が難しい環境の中で、評価が上がった要因は？また、次年度方向性が決まっている予定などあれば。

学校側回答（杉村）

評価が上がった大きなきっかけは特になく理由も不明だが、この状況下で学生会が一生懸命取り組んでくれた。次年度の学校祭開催も難しい中、何か他のやり方で地域の方に貢献できればと思う。

住尾委員

評価が上がったのは、一生懸命取り組めたことに対する充実感からだと思う。報道されている所を喜ばしく見ている。

小野委員

教員が福祉教育の体験を積み上げていく為の講座がある。そのような機会を活かしてもらえたらいいと思う。自身も研修などの機会に学校をアピール、宣伝の協力をしていく。

4. 閉会（司会：氏原）

（1）挨拶（校長）

以上
（記録：若生）